



2月 園だより

ホームページ <https://www.aen.arakawa.tokyo.jp/minamisenju2/index.html>



もうすぐ幼稚園 待っているよ

園長 立石 晃子

大寒を迎え、一年中で一番寒い季節となりました。園では氷ができるかな？と園庭の寒そうなところに水を入れた容器を置いたり、プールに水を張ったりしています。冬の実験です。

1月18日(木) 新入園保護者会・体験入園を実施しました。もうすぐ幼稚園に入園するお友達が幼稚園の子どもたちと一緒に過ごす日です。幼稚園の子どもたちにとって体験入園の機会は、自分よりも小さな子と接する大切な機会です。各学級ではそれぞれに「小さい子のために



どうしたらよいか」を考えました。いざ、小さい子が学級に来ると、積極的に「一緒に遊ぼう」と声を掛けていたり、泣いている子に寄り添ったり、と自分のできることを考え実践していました。そんな優しさに包まれ、新入園児の子は安心したようで、迎えに行った際は幼稚園の友達と一緒に絵本の読み聞かせを聞いたり、絵本に合わせて体を動かしたりしていました。

コロナ禍を経て来た子供たちには、友達と接すること、特に異年齢の友達と接する様子に経験不足の様子が見られていました。そこで年下の相手を思い自分の振る舞い方を考えることができるようにと、汐入ふれあい館の2歳児クラスに出掛けて触れ合ったり、機会を捉えて異年齢での活動を行ったりしてきました。そして教師は「さすが！すごいね」と年長者を認めたり、年少者には年長者の行動に気付かせたりしてきました。この積み重ねが、今回の子供たちの姿となったように感じられました。

平成23年6月国立教育政策研究所生徒指導研究センター「子どもの社会性が育つ『異年齢の交流活動』-活動実施の考え方から教師用活動案まで-」の中に、かつての近隣の仲間集団について、「近隣の『仲間集団』では、遊びを通して、人と関わることに慣れ親しむだけでなく、集団の一員としての自覚が促されてきました。みんなが楽しく遊べるためには、約束を守ることや、力の弱い者をかばうことなどが必要だからです。そうしたことは、年少から年長へと育っていく中で、役割の推移という形で学んでいくことでした。(略)誰もがその成長の過程の中で、お世話をされる側からお世話をする側になる、お世話された体験を活かしてお世話する体験を積む、という具合に身に付けるものでした。」「『異年齢交流』が年長者の『社会性の基礎の部分』を形づくる際、鍵を握っているのは、交流相手の年少の児童とともに、近所のおじさん・おばさんに相当する他学年の教師たちや活動に参加する保護者や地域の人々です。彼らの言動や視線が年長者の『自己有用感』の獲得に大きな影響を及ぼすからです。」とあります。子供たちの交流の場を設定するだけでなく、我々大人がしっかりとその行動を認め、子供たちの思いやりの気持ちをはぐくみ、それが次世代へと連鎖していく過程を大切にしたいと考えます。

楽しいこといっぱい！子どもたちの園生活

< 3 歳もも組 >

お正月遊びや親子マラソン お家の方と一緒に楽しもう！！

3 学期が始まって友達や教師との再会の喜びを感じながら、コマ、お手玉、絵合わせかるた、凧あげなどの昔ながらの遊び等の伝承遊びを楽しみ、日本の文化に触れました。それぞれのお気に入りのお正月遊びを見つけて楽しんだ子供たちでした。

親子マラソンでは、お家の方と一緒に走ることを喜び、「明日、マラソンだね」「マラソンの練習してきたよ！」等と期待の気持ちをもっている声が聞こえてきます。寒さに負けず、身体を動かすと温かくなることを感じています。

劇ごっこでは、絵本の読み聞かせをしてから「うんとこしょ、どっこいしょ」と、大きなカブごっこをしたり、「ゴシゴシシュッシュ」と、もりのおふるごっこをしたりしています。好きな動物のお面を付けてなりきっています。繰り返し行うことで、お話も分かり、表現遊びを楽しんでいます。

< 4 歳たんぼぼ組 >

友達と一緒にだと楽しさ倍増！力も倍増！やる気もいっぱい！

3 学期の始まりとともに、お部屋にかかるたや羽子板、けん玉やお手玉を置いておくと、興味をもってチャレンジしてみる様子がたくさんありました。じっくりと自分なりの挑戦を楽しむけん玉やお手玉、友達と一緒にだから楽しい羽根つきやかるた、日に日に盛り上がってきて、羽根つきで何度つけるかなどと数えたり、友達を応援したりして楽しんでいます。お気に入りには「おしごとかるた」、数を競って楽しみ、少しずつ読むことにも興味が沸き、色々な種類のお仕事にも関心が広がっています。園庭では、上り棒や鉄棒・縄跳びなど、繰り返しチャレンジしながら、友達が上手になったことを褒めたり、それを見て自分もできるようになりたいと頑張ったり、やはり友達からの刺激が一番なのだということがよく分かります。

劇遊びに向かっても、友達と一緒にの楽しさ、一緒にイメージを共有して表現する楽しさを存分に味わっています。2 月も、友達とのつながりを大事にしながら楽しんでいきます。

< 5 歳ばら組 >

できるようになりたい！できた！すごいね！自分もみんなも輝く 2 月に！

3 学期が始まり、おはよう親子マラソンでは保護者の方の付き添いや見守りのおかげで、園の周りを楽しんで走りながら体がポカポカと温まる心地よさを繰り返し味わっています。寒い日には日陰にできたたくさんの霜柱を発見し、大喜びで踏みながら走ることを楽しんでいます。好きな遊びの中では、羽根つきや投げコマ、あやとりに挑戦し、「新しい技に挑戦したい」「友達と同じ技ができるようになりたい」と自分なりにめあてをもって取り組む姿や、「どうやあるの、教えて？」と友達同士コツを教え合ったりしながら取り組む姿も見られます。

2 月は、共通の目的に向かって個々がさらに力を発揮する中で、良さを認め合い助け合いながら、自分たちの力で遊びや活動を進める充実感や成し遂げることができた達成感を味わえるよう、援助していきます。小学校への期待や喜びに合わせて、園生活との別れに寂しさや新しい生活への不安も見られています。様々な活動で、それぞれの力を発揮し、満足感や充実感が自信となるよう、丁寧に関わってまいります。